

国立アイヌ民族博物館 建物基本設計の策定について

文化庁では，平成27年7月に取りまとめた「国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画」に基づき，国立アイヌ民族博物館の建物基本設計を実施しました。

- 博物館の理念

先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し，国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに，新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

- 建物基本設計 国土交通省北海道開発局へ支出委任
設計者 株式会社久米設計

整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点



施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約8,600㎡

規模：地上3階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており，本イメージ図には含まれていない。

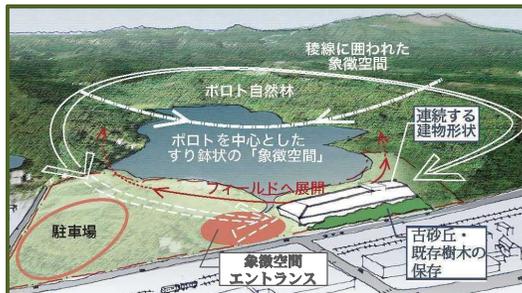
【基本方針①】 ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和

○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和

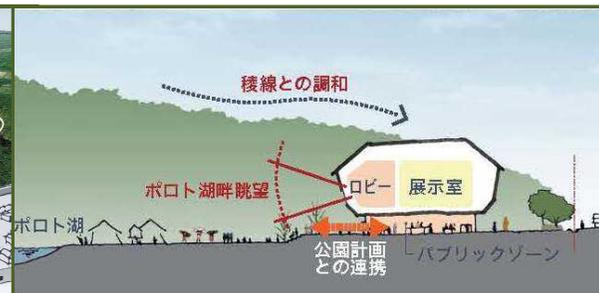
- ポロト湖畔周囲に広がる，すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
- 展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保

○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出

- 来館者が公園と相互に利用できるよう，公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置



ポロト湖周辺の自然との調和



ポロト湖畔を眺望できる展示室ロビー

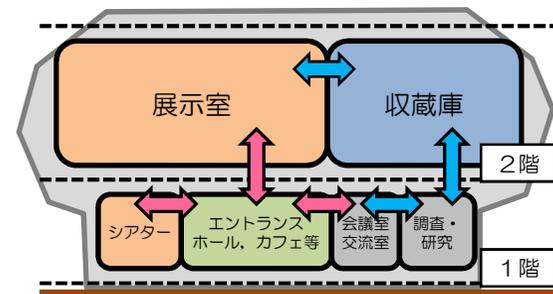
【基本方針②】 アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画

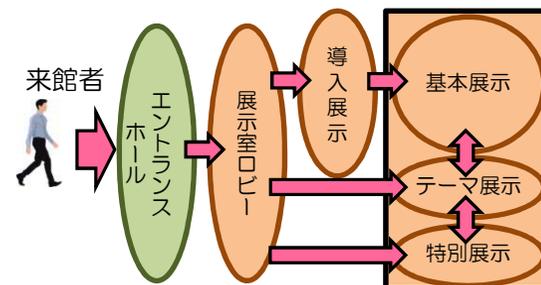
- 展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く，期待感を高められる動線計画
- 映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター，アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意

○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保

- 貴重な資料を展示，収蔵するため，展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに，調査・研究に必要なスペースを用意



断面構成



展示室へ導く動線計画

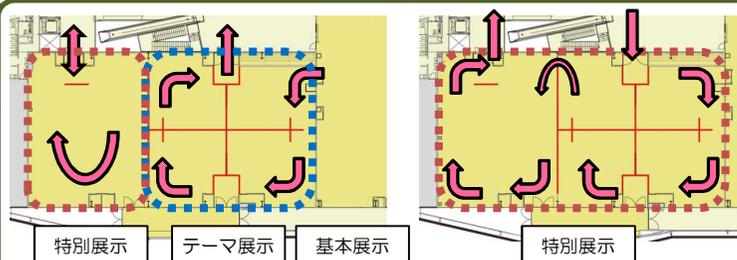
【基本方針③】 国内外の多様な人々に向けた アイヌの歴史・文化等の発信拠点

○展示替えに対応できる展示室

- 展示室に可動間仕切り壁を設置し，国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応

○多言語対応，アイヌ文様の活用

- アイヌ語，日本語，英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
- アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現



特別展示・テーマ展示

特別展示（一体で使用）

展示替えに柔軟に対応できる展示室（例）



伝統的なアイヌ文様（例）



【 鳥瞰図（南面） 】

※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



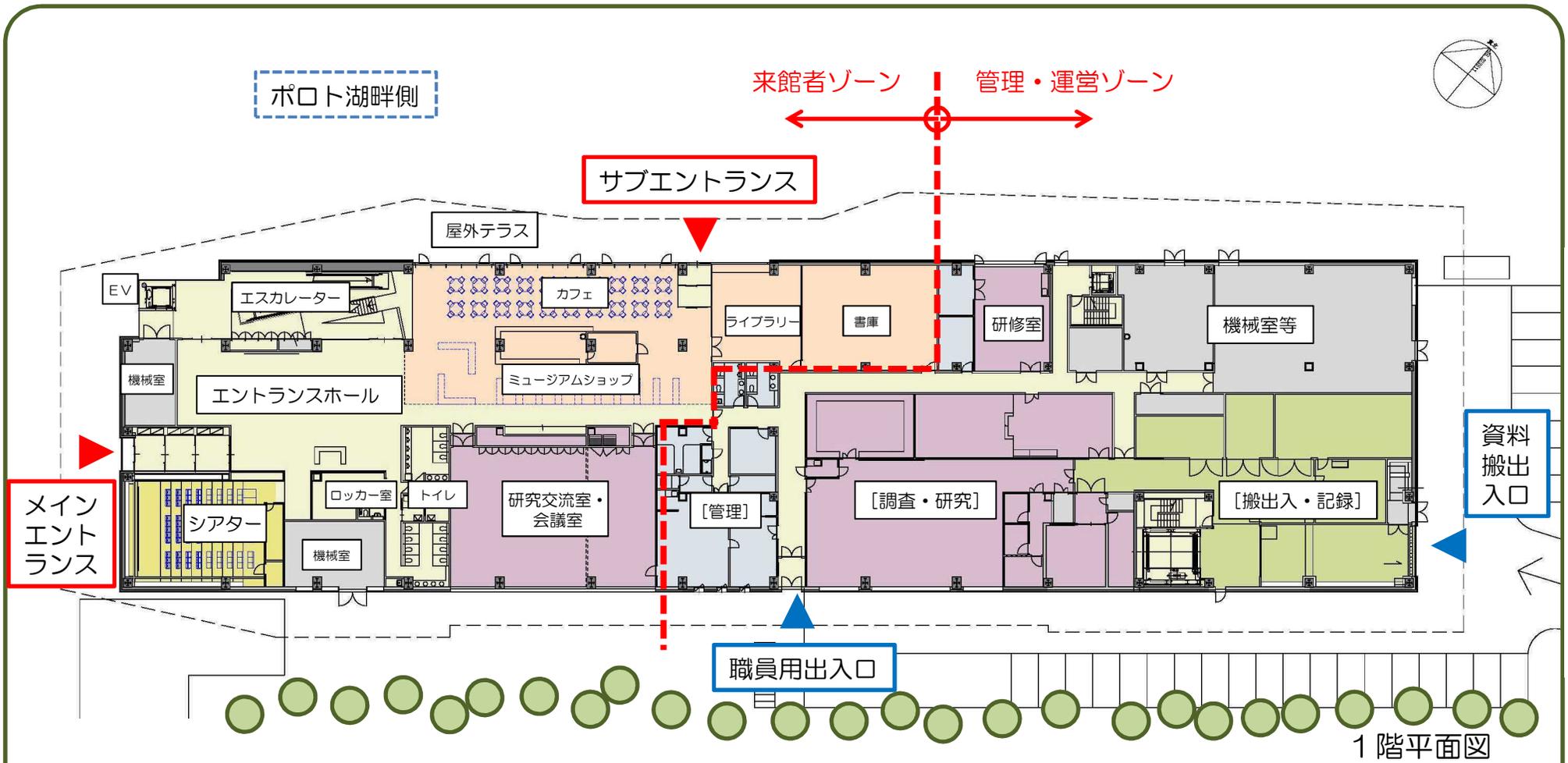
【 完成予想図① 】

※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



【 完成予想図② 】

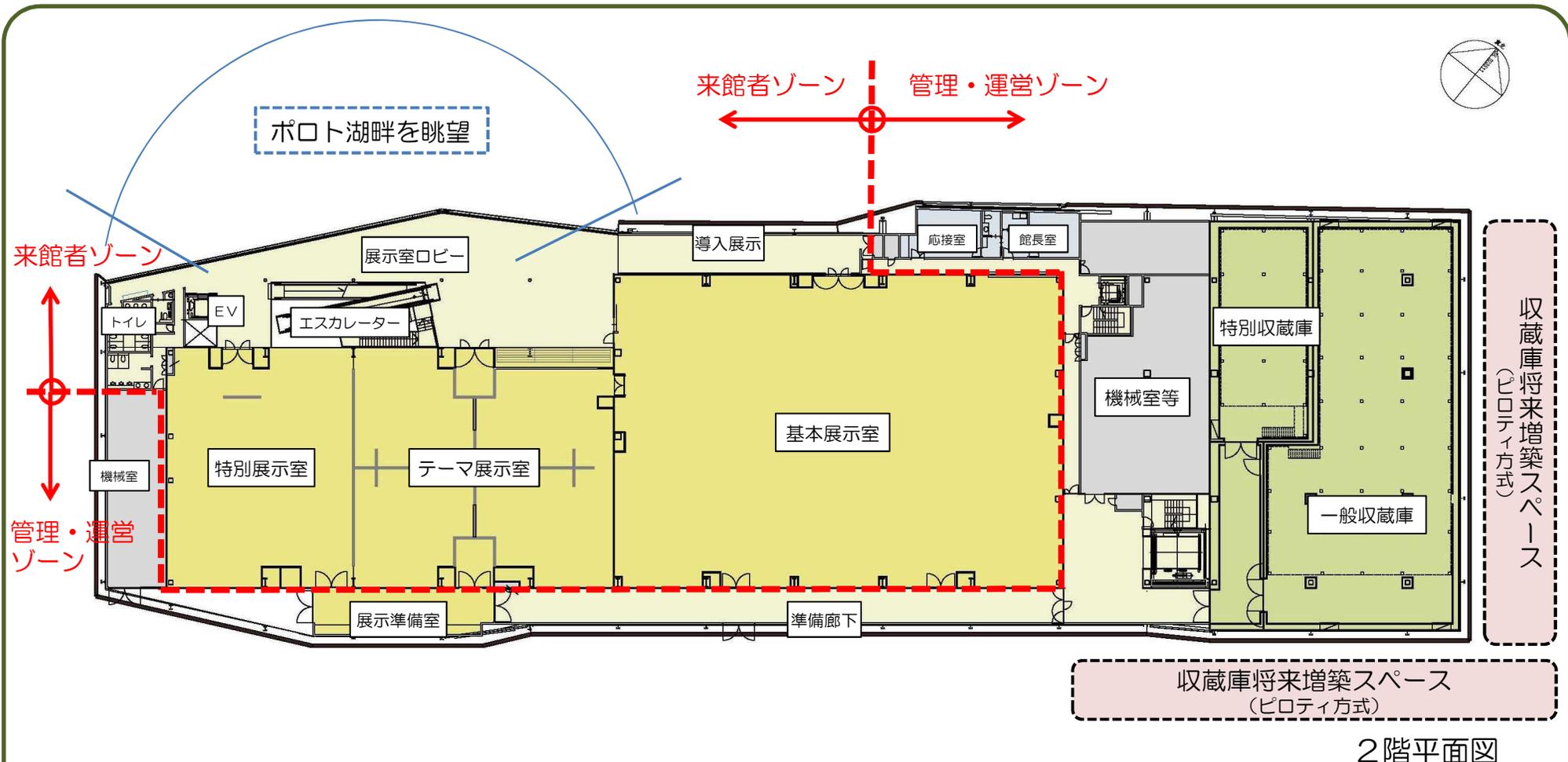
※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



1階平面図

1階：来館者サービス、博物館の管理・運営部門を配置	
シアター	映像や音声でアイヌ文化の概要等を紹介
カフェ、ミュージアムショップ	国立民族共生公園に隣接、公園来場者にも広く開放
研究交流室	アイヌ文化の講座や講演会などのほか、ガイダンスにも使用

※詳細は実施設計により変更の可能性がある。



2階：展示室，収蔵庫を集約	
展示室ロビー	自然豊かなポロト湖畔を眺望できるロビー空間
展示室	テーマ展示室と特別展示室の間仕切を移動可能とするなど，様々な展示形態に対応
収蔵庫	収蔵庫の温湿度が一定となるよう管理を行い，貴重な展示・収蔵品の劣化を防止

3階は機械室を配置

※詳細は実施設計により変更の可能性がある。